

## 第1号議案 平成21年度事業報告について

社会福祉法人致知会は平成17年10月11日に法人が設立され、救護施設真和館は平成18年4月28日に施設が認可されましたので、平成21年度は4年目の年にあたります。

「3年で一人前の施設運営」というスローガンのもと、施設運営の理念あるいは基本的な考えや方向性については樹立できていましたが、新設施設でもあり職員の介護力や事務処理能力はまだまだでありました。

そこで、平成21年度は「効率的で質の良いサービス」を提供するための担い手は職員であり、職員が熱意を持って仕事に取り組めるよう新たな組織を発足させたり、能力開発のために研修に力を入れ、給与の改善も計画的に進めてきたところであります。

さらに、職員の働く環境が劣悪であり、入所者の学習室が潰れる等入所者にも若干の不便をかけることになりましたので、中期経営計画で予定していた真和館の改修及び増築計画を前倒し、準備を進めてきました。

また、調理室が狭く仕事がやりにくく、事故に繋がりがねないという声が現場からあがっていました。そこで、現場で働く職員の意見を基に、レイアウトの変更をした結果、安全で働きやすい調理室に変更することができました。

職員の能力開発に取り組む中で、真和館の職員も育て方次第では、何とかなるのではと若干の手ごたえを掴めましたので、これをどのように持って行くとする気のあるモチベーションの高い職員に育成することができるかという観点に立ち、「真和館中期研修計画(平成22年4月～25年3月)」を策定いたしました。

また、施設内に「サービス向上委員会」を発足させ、介護関係のマニュアルの見直し等もおこなってきました。

ところで、平成21年度の入所者処遇を一言で言えば、新型インフルエンザに始まり新型インフルエンザで終わった年でした。入所者のみなさんも買い物にも、レクレーションにも、極端に言えば病院にも自由に行けない、窮屈な生活を余儀なくされた年でありました。

幸い、真和館の入所者のみなさん(職員を含め)は、新型インフルエンザにも罹患せず過ごすことが出来ました。お蔭様で開設以来、インフルエンザの感染者は一人も出さないという記録を伸ばすことができました。

なお、21年度は事務的には、定額給付金やテレビのデジタル化といった通常のと違った特別の事務も発生しました。

### I 社会福祉法人致知会事業報告

## 1 理事会の開催状況

### (第1回理事会)

日時 5月30日(土)16:00~17:25

場所 料亭「はらぐち」熊本市水前寺

出席者 理事 11名中 11名出席 監事 2名出席 顧問 1名出席

議案 第1号議案 平成20年度 事業報告の承認について

第2号議案 平成20年度 決算の承認について

第3号議案 給与規則の一部改正について

※ 第1号議案から第3号議案まで、原案どおり承認される。

報告事項 平成20年度専決予算について

### (第2回理事会)

日時 9月26日(土)10:27~11:45

場所 真和館2階西食堂

出席者 11名中 11名出席(うち1名書面議決書による出席)

監事 2名出席 顧問 2名出席

議案 第1号議案 就業規則の一部改正について

第2号議案 嘱託・臨時職員及びパートタイマーの就業規則の一部改正について

第3号議案 給与規則の一部改正について

第4号議案 理事の任期満了に伴う選任に関する同意について

第5号議案 監事の選任について

第6号議案 理事長の互選並びに職務代理者の指名及び選任について

第7号議案 顧問の選任について

※ 第1号議案から第3号議案まで原案どおり、第4号議案から第7号議案の役員改選については全員現役員がそのまま再任される。

### (第3回理事会)

日時 3月20日(土)10:30~12:00

場所 真和館2階西食堂

出席者 理事10名中7名出席(うち3名書面議決書による出席) 欠員 1名

監事 2名出席 顧問 2名出席

議案 第1号議案 平成21年度第1次補正予算(案)について

第2号議案 平成22年度 事業計画(案)について

第3号議案 平成22年度 収支予算(案)について

第4号議案 定款の一部改正について

## 第5号議案 給与規則の一部改正について

※第1号議案から第5号議案まで、原案どおり承認される。

### 2 監査の状況

日時 5月23日(土)10:30~12:30

場所 真和館面接室

監査者 監事 川村隼秋 監事 塘林恭介

監査結果 文書での指摘事項なし

### 3 県の指導監査

日時 7月28日(火)9:30~16:30

場所 真和館西食堂

監査者 熊本県社会福祉課 監査班

主幹 松川晋二 参事 上村陽一

監査結果 文書での指摘事項なし

## II 救護施設真和館事業報告

真和館は開設以来、作業棟の新設・倉庫の購入・車両・温冷配膳車・大型テレビの導入等設備面からの入所者サービスの向上に力をいれてきました。

また、入所者に対する援助メニューや年間の行事等ソフト面のサービスも整備され、安定した入所者サービスができるようになりました。

そこで、平成21年度は手薄であった看護体制を充実させるために、看護師を1名増員し、2名とし入所者サービスの充実に努めてきました。

入所者については、不況の影響もあり常に定員をオーバーした状態で入所者を受け入れて来ました。13名の方が退所され、うち1名の方が生活保護を受けながら地域生活に戻られ、4名の方が専門施設へ転所され、仕事や訓練に励まれることになりました。また、精神科入院・死亡がそれぞれ4名となっています。

### 1)障害区分状況

平成22年4月1日現在

	身体障害	知的障害	精神障害	重複障害		生活障害	合計	(内アルコール依存症)
				身体障害と精神障害	知的障害と精神障害			
男	8(3)	6	33(7)	4	5	5	43	(20)
女	2(1)	0	11(5)	2	0	0	11	(4)
計	10(4)	6	44(12)	6	5	5	54	(24)

※身体・知的・精神障害の数は手帳所持者の数であり、合計とは一致しない。

※身体障害の( )内は内部障害者の数で、精神障害の( )内は統合失調症者の数である。

## 2) 年齢別入所者状況

平成22年4月1日現在

	20～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～79	80～	合計
男	1	0	10	13	12	7	0	43
女	0	0	5	2	1	3	0	11
計	1	0	15	15	13	10	0	54

男性平均年齢 63歳6ヶ月

女性平均年齢 62歳8ヶ月

全体平均年齢 63歳4ヶ月

## 7) 退所者状況 (1)

H21・4・1～H22・3・31

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
就職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
他施設移行	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	4
精神科入院	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	4
その他入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死亡	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	4
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	0	1	1	0	3	1	0	2	3	1	13

## 退所者状況 (2)

H18・4・28 ～ H21・3・31

	就職	地域	他施設	精神入院	他入院	死亡	その他	合計
18年度	0	0	1	2	3	1	4	11
19年度	0	3	2	3	0	1	1	10
20年度	0	7	3	3	1	3	2	19
21年度	0	1	4	4	0	4	0	13

## 1 入所者の援助について

真和館は新しい施設で、しかも部屋は1人部屋と個室に近い2人部屋のために、利

用者のプライバシーは比較的に守られています。

また、入所者は心身に様々な障害をお持ちの方々のため、健康で安定した生活を送っていただくことに常に気を配る必要があります。

そこで、様々な行事やレクリエーションは、できるだけ心と体の健康の視点に立ち組み立てています。

入所者のみなさんに「ゆっくりした時間の流れと空間」の中で、仲良く、落ち着いた生活を送っていただくような援助をめざして行きたいと思っています。

#### (1) 真和館の一日の流れ

7:00～ 8:00	起床・着替え・洗面
7:30～ 8:30	朝食
8:40～ 8:50	ラジオ体操
8:50～ 9:00	断酒の誓い
9:00～10:00	掃除
10:00～10:30	ペン習字(日本習字真和館支部)
10:15～10:45	自彊術(健康体操)
12:00～13:30	昼食
14:00～17:00	入浴(月・火・木・金)
17:45～19:00	夕食
21:00～22:00	就寝準備
22:00～	就寝

食事が終われば、体を動かす時間となり、ラジオ体操、掃除、健康体操の自彊術が日課となっています。

また、最近では自彊術が終わった後、輪投げ・ダーツ等の体を動かすレクリエーションも取り入れました。

施設の犬(ゴールデンレトリバー)「雄太」も、みなさんの散歩のお供で大活躍です。

今、問題と思われるのは、学習室が入所者の居室になっているため、ペン習字をする方の専用室が無くなり、毎朝のペン習字の取り組みに微妙な影響を与えています。1日も早く、学習室できあがり、落ち着いてペン習字ができる環境の整備が待たれます。

#### ①自彊術

ラジオ体操が筋肉を柔らかくする体操とするならば、自彊術は灸や針のように体のポイントを刺激することにより呼吸・血流の流れを良くし、肩こり・腰痛には勿論のこと様々な内蔵疾患にも効果のある体操と云われています。

毎朝、5～6名の方が参加されています。

## ②ペン習字

21人という多数の方が、ペン習字の会員として練習をされています。

3月31日現在で、初段が1人、準初段が1人、1級が1人、2級が2人、3級が5人、4級が6人、6級が3人、7級が2人となっています。

## (2)真和館の1週間の流れ

月曜日 入浴

火曜日 入浴・買い物

水曜日 断酒会・行事日(年間・月間の行事が入る日)、職員会議

木曜日 入浴・心みがきの読書会

金曜日 入浴・歩こう会・山歩き(登る会)

土曜日 合唱クラブ・ビデオ映画鑑賞

日曜日 合唱クラブ・ビデオ映画鑑賞

月・火・木・金曜がお風呂、火曜が買い物、水曜が断酒会、木曜が心みがきの読書会、金曜が歩こう会・山歩き、土・日曜は合唱クラブとビデオでの映画鑑賞会と確実に1週間の流れが定着して来ました。ただ、21年度は買い物の回数が、新型インフルエンザの関係で大きく減っています。

## ①歩こう会

歩こう会は雨の日もできるように、原則パークドームで実施しています。平成21年度は新型インフルエンザのため8回しか実施できず、平均7人の方が参加されました。

なお、DM(糖尿病)ウォーキングと称して、看護師と栄養士が中心になって大津の運動公園で歩いたり、サッカーボウルで遊んだりする運動療法を12回実施し、平均4名の方が参加されました。

## ②山歩き(登る会)

山歩きは職員の体制が整わずなかなか開催ができず、平成21年度は8回の実施となりました。

また、参加できる体力のある人が、開設当初の15名程度から21年度は4名になってしまいました。

## ③合唱クラブ

土・日曜日の11時15分から、童謡・唱歌・懐かしい演歌などを中心に、30分程度、11～12名程度の方が、練習をされています。

平成21年度は100回の練習と毎月の誕生会や施設のイベント等で発表をしてきました。

なお、2月28日に開催された西原村社協主催の「のぎく祭り」に12名のみなさんが日頃の練習の成果を披露しました。初めての館外活動としては、大変好評でした。

#### ④心みがきの読書会

木曜日の10時半から約1時間、11名の会員に対し、施設長から心が洗われるような本を1時間読んでもらっています。平成21年度は、50回の開催で平均7名の方が参加されています。

※参考図書

坂村真民著「一日一言」、中国古典の「呻吟語」

北川八郎著「あなたを苦から救うお釈迦さまの言葉」

NHKラジオ深夜便「こころの時代」

#### ⑤ビデオ映画鑑賞会

土・日曜日の午後1時30分から、「真和館ビデオ鑑賞会」と称して内外の様々な映画をビデオで流し、楽しんでいただいています。

平成21年度は97回上映し、1回平均7名程度の方が参加されています。

なお、ゴールデンウィーク、お盆、年末・年始には特別ビデオ鑑賞会と称して「男はつらいよ」を第1巻から第16巻まで上映しました。

#### (3) 真和館の月間・年間の諸行事

誕生会	毎月	1回(館内行事後、レストランで食事会)
対話集会	毎月	1回(入所者の要望・苦情を直接聞く会)
避難訓練	毎月	1回
調理訓練	毎月	1回
カラオケ	毎月	1回(新型インフルエンザのため3回実施)
健康診断	年	2回(日赤健康管理センター)
入所時健康診断		入所時随時(日赤健康管理センター)
健康・栄養指導	年	2回(健康診断の数値が出た時点)
インフルエンザ予防接種	年	2回 1回は新型インフルエンザ
のど自慢大会	年	3回(館内で実施)
ボランティア	年	5回(カラオケ・民謡・琴・にわか等)
餅つき	年	1回

初詣	年	1回(健軍神社又は阿蘇神社のどちらか選択)
厄入り・還暦	年	1回(健軍神社及び阿蘇神社お参り・食事会)
旅行	年	4回(宿泊1回、キャンプ1回、日帰り2回)
芝居見学	年	4回(旅行との選択)
食事会	年	4回(旅行との選択)
心みがきの講演会	年	4回
スポーツ大会	年	2回(春・秋)
意見発表会(創立記念日)	年	1回
バーベキュー大会	年	数回
熊救協施設交流会	年	1回(スポーツ大会)
ふれあい交流会	年	1回(地域との交流)
真和館祭	年	1回(演劇・踊り・カラオケ)
季節の行事	年	数回(正月・ひな祭・クリスマス・餅つき等)
手芸クラブ	年	18回(行事の飾りつけ・プレゼントづくり)
茶道クラブ	年	18回(身体障害者茶道クラブもえぎ)
外部行事への参加	年	2回(のぎく祭・陶芸教室)
季節の花見	年	数回(桜・バラ・菊・植木市・植物園等)
一坪農園	随時	
園芸クラブ	随時	
地域清掃	年	数回(真和館登り口の道路清掃)
施設内清掃	年	数回(2階のベランダ・室外機の清掃等)

#### ※①心みがきの講演会

入所者が地域生活や施設内での自立をめざすために、心の持ち方や対人関係を学ぶために外部講師をお招きして、講演会を開催しています。

最近では健康問題の講演に中心が移ってきました。

《6月10日(水)》

演題 アルコール依存症について(体験発表)

講師 久島雅樹先生

《10月16日(金)》

演題 加齢に伴う健康管理について

講師 日赤健康管理センター名誉所長 小山和作先生

《12月2日(水)》

演題 楽しく生きる～楽しく生きるための対人関係の改善～  
講師 満願寺窯主宰・著述業 北川八郎先生

《3月13日(土)》

演題 未病対策～東洋医学で元気に長生きを～  
講師 益城病院 宮本康嗣先生

## ②旅行と花見物

真和館では春・夏・秋・冬の年に4回の旅行を実施しています。平成21年度春は、山田の藤・八千代座、夏には阿蘇市の古代の里でのキャンプ、秋にはカントリーパーク・孔子公園、冬にはハウステンボスへの1泊旅行をしました。

旅行に行かない方には、芝居見物か食事会に行ってもらっています。最近では体が弱った方が多くなり、芝居見物と食事会に人気が出ており、参加者も増えてきています。

なお、気分転換をかねて桜、バラ、菊、植木市、植物園等の季節の花見物に行っています。

## ③真和館スポーツ大会

春(4月23日)と秋(10月23日)の2回スポーツ大会を開催しました。

種目はグランドゴルフ、卓球、ニチレクボール、ダーツ、輪投げと元気な方から車椅子の方まで参加できるよう配慮しています。春の大会に26名、秋の大会に28名の参加がありました。

なお、恒例の熊本県救護施設交流会(スポーツ大会)が5月21日(木)に、パークドーム開催され、真和館もグランドゴルフとニチレクボールチームに15名の選手を派遣しました。

## ④真和館仲よし祭り

「真和館仲よし祭り」は、クリスマスや忘年会を兼ねた真和館の年末の最大の行事であり、平成21年度は12月23日に「富合にわか」のみなさんの「鬼七の豊年満作」をメインの出し物とし、それに加えて、入所者のみなさんと職員が一緒になって歌や踊りや劇の出し物、大抽選会で楽しい一日を過ごしました。

お蔭様で、年末の憂さを晴らし、その後は、餅つきや新しい年を迎えるための準備が始まり、入所者のみなさんも落ち着いて新年を迎えていただくことができました。

## ⑤カラオケ大会

カラオケには毎月1回、平均11名の方が参加され、カラオケボックスで思い切り歌

っていただいていたのですが、新型インフルエンザの関係で21年度は3回しか開催できませんでした。

そのための対策として、のどじまん大会やカラオケ大会を館内で併せて4回開催し、外出ができない日々の憂さを晴らしていただきました。

#### ⑥一坪農園

入所者のみなさんに自分でできる範囲内で、花や作物づくりを楽しんで頂くため、20年度から一坪農園を始めましたが、21年度は5名の方の取り組みになってしまいました。

また、園芸クラブの2名の方も、ポチポチ花壇の花の手入れをしておられます。

#### (3)入浴

入浴は身体の清潔を保つとともに、心身のリラックスによる健康の保持に欠かせないものであり、生活習慣の一部でもあります。ただ、入浴があまり、好きでない方もおられ、丁寧な誘導が必要となっています。

入浴日	一般浴	月	火	木	金
	介助浴	月		木	

介助浴者数 《男性》20名(全介助 7名、一部介助 13名)  
《女性》9名(全介助 なし、一部介助 9名)

#### (5)給食

給食は暮らしの質を左右し、入所者が最も楽しみにされているものの一つであります。そのために、入所者の嗜好にできるだけ合った給食が提供できるよう様々な工夫をしているところです。

各ユニットの代表者と栄養士とで献立の検討や各ユニットからの様々な要望について、月に1回「メニュー検討委員会」を開催し、細かなところまで、詰めた検討をしています。

また、行事食や外食の機会をできるだけ数多くしたり、行事のある日は弁当を利用したりして食事のバリエーションが豊富になるようにしています。

なお、平成21年度の新たな取り組みとしては、選択食を導入しました。

内容としては、朝食の主食をパンとご飯の選択(月・水・金)とし、昼食についても主食や副食あるいはデザートを選択(週1回)をしていただくことになりました。

《行事食》

4月28日	創立記念	12月24日	クリスマス
5月5日	節句	12月31日	年越し
7月7日	七夕	1月1日	正月
7月19日	土用の牛の日	1月7日	七草粥
8月15日	お盆	2月3日	節分
9月21日	敬老の日	3月3日	ひな祭り
9月26日	お彼岸	3月19日	お彼岸
10月31日	ハロウィン	3月30日	お花見

※誕生日リクエストメニュー 各人の好きなメニューを誕生日に提供。また、その月の誕生日者全員でレストランでの食事会の開催

#### 4) 栄養の状況

平均栄養所要量		特食		食事形態	
エネルギー	1600kcal	糖尿食	9名	全粥食	6名
たんぱく質	50g~60g	減塩食	2名	刻み食	7名
脂質	35g~45g	特別食	1名	一口大食	1名
				二度炊き食	8名
				ミキサー食	3名

#### 2 個別支援計画

入所者の「思い」を大事にし、その目標に向かって「いきいきとした生活」をしていたくために、個別支援計画を作成しています。

個別支援計画の様式は全国救護施設協議会の様式では無く、真和館独自の様式を採用しているため、様式を自由に改良することができます。

21年度は、支援目標の達成を職員が常に、意識するよう月間取りまとめの欄に「援助内容に関する進行状況」を新設する等、様式も次第に深まって来ています。

#### 3 アルコール依存症に対する取り組み

真和館入所者の半分近くの方は、アルコール依存症です。従いまして、開設当初から飲酒は禁止としてきました。それでも隠れて飲酒をされる方がおられるので、飲酒の現場を押さえ、関係した人を割り出し、対策を取り、やっと落ち着いた施設に戻るといふ繰り返しを何度かやってきました。

幸い、最近はずっと落ち着き、21年度に発生した飲酒事件は、散歩中に飲酒をされた2件、散歩中そのまま家に帰って飲酒をされていたのが1件の3件(3人)が発生しただけでした。

出入り自由で鍵のかからない施設でアルコール呑ませないことは並大抵の苦勞で

はありません。呑みたさに飛び出そうとする依存症の方を長時間なだめたりすかしたり説得を重ね、それでも、飛び出してしまわれたら、後ろから付いて行き、飲酒をさせないようにしています。

このような、努力が実り、また、職員のアルコール問題に対する知識や経験が蓄積され、対応力も格段に向上し、何とか飲ませずに済ませることができるようになりました。

#### ①断酒の誓い

毎朝 8 時 50 分から 2 階談話コーナーで 12 名程度の方が集まり、「断酒の誓い」を斉唱し、断酒の継続を誓っています。

#### ②真和館断酒会

真和館断酒会は、毎週水曜日午後1時30分から30分程度、平成21年度は2階西食堂で51回開催され、平均10名の方が参加されています。

「心の誓い」と「断酒の誓い」の斉唱から始まり、その後、アルコール依存症に関するテキストを全員で音読して、アルコール依存症についての知識を深めて行きます。本を読んだ後は、テキストの内容に沿った感想や体験談とともに、1週間の自分の生活の様子を参加者全員に話をしてもらいます。

最後に全員で「連鎖の握手」をし、閉会しています。

※使用参考テキスト等

「アルコール依存症を知る！ 回復のためのテキスト」NPO法人ASK

「今日も生きています～マッキーの酒乱万丈～」久島雅樹

「回復と成長のプロセス AC の生きる力！」NPO 法人 ASK

「季刊 Be！」NPO法人ASK

「回復のためのミニガイド」NPO法人ASK

#### 4 地域生活への移行支援

真和館の元々の設立目的は、入所者の就労自立や地域生活をめざすことでした。ところが現実に入所者の半数近くがアルコール依存症のため、アパートでの自立生活など夢の夢、どのようにして外に出さないで飲酒をさせないかが、一番の課題となっています。

このような中、障害を持ちながらも、なんとか元気な方を、地域生活や専門施設に繋げることができないか努力をしてきました。

20年度に7名の方が地域生活に戻られた反動で、21年度は対象となる方が居られなくなり、やっと1名の方が地域に戻られ、3名の方が自立に繋がる施設(能力開発センター・天草更正園)に転所ができました。

### ①作業訓練(紙貼り作業)

就労をするにあたり、継続力を養うために、4人の方が、弁当をまとめて10～20個と一度に沢山運ぶための紙袋貼りの作業に従事しています。

1日の作業時間は、各人の能力や希望に応じ2～6時間の範囲になっています。ただ、就労というよりは、本人の精神安定のために、作業訓練に従事いただいているのが実態です。

### ②調理訓練

自立をめざす方や調理が好きな5人の方に、簡単に調理ができるメニューを中心に平成21年度は、12回の調理訓練を実施しました。

また、施設のイベント時のおやつ作りもしており、みなさんに大変喜んでいただいています。

### ③買い物

大津町にあるジャスコやダイソー、益城町にあるスーパーキッドに定期的に行っています。また、自分で行けない方は、職員に「ことづけ」をして必要なものを買ってきてもらっています。

平成21年度は、新型インフルエンザの関係もあり、長期間集団での買い物は禁止となり、14回だけしか行けず、1回平均20人の方が参加いただきました。

反面「ことづけ」については、28回行き1回平均10人の方がことづけをたのまれました。

なお、職員が個人的に頼まれて、通勤の途上等に買い物をしてくることもあります。

また、「寄り添いショッピング」と称して、高額商品やアルコール飲みにイライラしている入所者の気分転換のため、職員と入所者がマンツウマンで買い物に行くこともあります。

## 4 安全で安心な生活

### (1) 健康管理

真和館に入所されている方は、高齢であり、しかも、精神障害・アルコール依存症・高血圧・糖尿病などのため眠れない方や眠りが浅い方、あるいは体調が思わしくない方が沢山おられます。従って、日頃の健康管理や心身の変化の把握に、常に注意を払うとともに、服薬管理に気が抜けない状況にあります。

特に、健康診断には力を入れた取り組みをしており、春と秋の2回、日赤の健康診断を受け、その結果を主治医に報告するとともに、看護師と栄養士がデータに基づき個別に健康指導を行っています。

なお、21年度は歯科についても希望者を募り、23 名の方が歯科検診を受けられました。

## (2) 感染症対策

平成 21年度の春から新型インフルエンザ対策が緊急の課題となり、感染症が施設に入らないように、その防止に細かな配慮をいたしました。

まず、入所者のみなさんに「うがい・手洗い」の励行をお願いすることから始まり、外出から帰ったときの手指の消毒、買い物・レクレーションの自粛、予防接種(季節性及び新型インフルエンザ)の実施などを行いました。

また、感染者の発生に備え保護観察室(2床)を設置したり、職員に対してガウンテクニックの指導をしたりして、感染症の発症した場合の準備も怠り無く進めてきました。

幸いに、新型も季節性インフルエンザも、罹患者は1人も出ませんでした。

なお、21年度は「感染症対策」の万全を期するため、安全衛生委員会を 6 回開催しました。

## (3) 入院・通院

真和館の入所者は、心や体に障害をお持ちの方々のため、入院や通院が多く、その送迎の業務に忙殺されています。

なお、救護施設の場合、自分で通院というのが原則ですが、真和館の場合ほとんど全ての方が職員の付き添いで通院されるという形になっています。

5)入院の状況(21年度延べ人数)

入院科	回数
精神科系	25
内科系	9
外科系	12
合計	46

※入院の実人員は27人です。

6)通院の状況(21年度延べ人数)

診療科	人数	診療科	人数
精神科	446	外科・脳神経外科	4
皮膚科	39	リハビリ	10
整形外科	33	救急外来	3
形成外科	10	循環器	6
眼科	90	消化器科	26
歯科・口腔外科	266	心臓血管外科	1
内科	252	神経内科	2
婦人科	4	泌尿器科	22
耳鼻科	11	大腸肛門科	12
		合計	1237

#### (4) 苦情処理

入所者の苦情については、「投書箱」「苦情申し出窓口」を設置するとともに、「苦情解決第三者委員」を設置し制度に則った解決に努めています。

また、毎月1回月初めに、施設長が直接入所者のみなさんから苦情を聞き、その場で、解決のための話し合いをする「対話集会」を開催しています。

さらに、「明日へ向かって」という入所者の「日頃の思い」を書いていただく文集を年に1回発行していますが、その中にある苦情についても拾い上げ対応しています。

《苦情の種類》		《苦情の申出方法》		《苦情申出者数》	
安全	1	直接	4	9件	1人
食事	11	投書	19	4	4人
設備	5	対話集会	33	3	4人
環境	2	文集	7	2	1人
イベント	10	合計	63	1	13人
対人関係	20			合計	23人
職員	10				
金銭	1				
日常生活	8				
合計	68				

※ 「苦情の種類」と「苦情の申し出方法」と「苦情申出者数」の数は、1件の苦情に、いくつかの内容が含まれているため、合計が一致しません。

#### (5) 防災訓練

真和館は新しい施設であるため消火栓を始め、スプリンクラー等の消防設備も充実しており、避難路の確保にも問題はありません。

月初めには必ず消防訓練(年12回)を実施しており、平成21年度も20年度に引き続き、職員配置が薄い夜間を想定した避難訓練に重点を置いた訓練をしました。その結果、12回の内の8回が夜間訓練を想定した訓練となっています。

なお、最近の自主防災組織のリーダーの方が、避難訓練を手伝っていただく姿も見られるようになりました。

#### (6) リスク管理

施設運営の中で介護リスクは大きな比重を占めています。平成21年度はアクシデント83件・インシデント52件、合計135件の報告(20年度:112件、19年度:69件)が上がっています。そのうちの半分近くの49件(20年度55件)が転倒事故になって

います。

身体能力の低下した中での転倒であり、不可抗力の部分も多いのですが、落とした水で足を滑らす事故が平成 20 年度は 10 件と多かったので、様々な対策をたてました。しかし、それでも 21 年度も 7 件の事故が発生しています。引き続き、効果の上がる対策に取り組む必要があります。

次に多いのが服薬関係の事故 11 件(平成 20 年 6 件)ですが、これは事故が増えたというよりは、服薬体制の見直しを平成 20 年度、21 年度と引続き行った結果、職員の服薬に関する意識向上とチェック体制が整備されてきた結果と思われる。

なお、インシデントの数が平成 21 年度 49 件(平成 20 年度 19 件)と大きく増えたのも、職員の事故、特に、服薬関係(34 件)に対する意識向上の賜物と思われる。ただ、深く反省しなければならないことは、「のど詰り」事故を起こしてしまい、一人の方が死亡されたことであります。施設としては早速、2 度と事故を起こさないよう調理・介護・見守り体制等様々な角度から、できる限りの対策を採ったところであります。

《アクシデント・インシデントの内容(件数)》				《転倒内訳(件数)》	
転倒	49	服薬	11	身体能力	28
加害行為	2	誤飲	4	水	10
ケア	3	無断外出	3	障害物	5
火事	2	飲酒	3	寝相	4
火傷	3	その他	3	睡眠薬	3
設備	1	インシデント	49	その他	5
設備	2	合計	135	合計	49

#### 4 開かれた施設をめざして

##### (1) 地域との交流

真和館は鳥子地区のご支援ご協力のもと、平成 21 年度も引続き新年会・ドンドヤ・野焼き・地域清掃・神社の例大祭等の行事に参加させていただきました。

入所者のみなさんも地域を朝夕散歩されていますが、トラブルも無く、温かく受け入れていただいています。

また、サツマイモ・米・もち米あるいは野菜など地域の特産物を頂くことも多くなり、心から感謝しているところです。

特に、地域の方に真和館に立ち寄っていただくため、平成 21 年度も 8 月 9 日(日)に「第 3 回 ふれあい交流会」を～寿咲亜似さんの熊本弁で語る民話～をメインの出し物にして、タコ・タイゲーム、バナナの叩き売り、輪投げ、お菓子のつかみ取り、もえぎの茶席、クイズ、抽選会など、子どもから大人まで楽しめる催しを開催しました。その結果、園児 22 名、保護者や地域の方 43 名の方に参加いただくことができました。

なお、4 回開催した「心みがきの講演会」については、新型インフルエンザの関係で本年度は、地域の方々にはご案内を控えさせていただきました。

## (2) ボランティアとの交流

真和館も開設4年目になり、ようやく、知られるようになったのか、ボランティアでの来訪も若干、いただくようになりました。

「身体障害者茶道クラブ裏千家もえぎ」は真和館に月に2回茶道の指導に来ていただいております。また、真和館の開設以来、様々なイベントでは、必ず来ていただき、お客様をお点前で、ご接待していただいております。

また、9月25日(金)は津軽三味線、11月28日(土)大正琴、12月20日(日)カラオケ、12月23日(水)肥後にわか等のみなさんがボランティアで、お出でいただき入所者のみなさんと一体となり、歌ったり、弾いたり、演じたりしていただきました。

なお、ボランティアのみなさんの感想は、「この入所者は反応が良いので、やりがいがある。また、来たい。呼んでください。」と帰られます。

## (2) ホームページ

真和館の紹介を九州地区救護施設協議会及び熊本県救護施設協議会に掲載すると共に、真和館独自のホームページを開設しています。

真和館のレンタルサーバは、容量も少なかったもので、平成21年1月27日に3ギガに変更できましたので、体系的に見やすいホームページにと思っていますが、現在のところ、情報量の充実を図るのに精一杯の状況であります。

## (3) 真和館だより「風の彩り」の発行

21年度も、20年度に引続き、真和館だより「風の彩り」を2回(7月1日、1月1日)発行することができました。今後も確実に年2回のペースで発行し、真和館の現状を発信して行きたいと思っています。

お蔭様で、常にアルコールのことを特集していますので、真和館がアルコール依存症の方の処遇に力を入れていることが、知られるようになってきました。

## 5 運営体制の強化

### (1) 職員会議の充実

真和館では交代勤務のため意思統一が難しい施設特有の問題点を解決するために、宿直明け及び調理中の職員を除き、毎水曜日に全職員に出席してもらい職員会議を開催しています。

平成21年度は46回の職員会議を開き、施設長やそれぞれの担当者から各種方針の説明や提案の場として大事な役割を果たして来ました。

また、水曜日は職員が揃っていますので、各種会議もでき、行事を開催するにも都合の良い日になっています。

## (2)車の導入と器具備品の整備状況

真和館は通院や買い物等町から外れたところに立地しているため通院や買い物には、車が欠かせません。お蔭様で、開設当初に8人乗り(リフト車兼用)と5人乗りの普通車、19年3月に日本財団の補助で10人乗りの車、19年12月に日本自転車振興会の補助で10人乗り(リフト車兼用)、22年3月に軽の4人乗り(リフト車兼用)を導入したことにより、車の運行に不自由することがなくなりました。

さらに、パソコン、コピー機、印刷機、プロジェクター、カメラ、ビデオカメラ等の事務機器、大型テレビ、温冷配膳車、テーブル・イス、物置、作業棟等も揃いました。

なお、年度末には、体の不調を訴える方も多くなったので、電動ベッドを新たに18台(現在5台)リースで導入いたしました。

## (3)QC活動の取り組み

効率的な施設運営と人づくりのために、平成19年度からQC活動に取り組みを始めていますが、平成21年度も引続き8月から、2月にかけて改善サポートオフィス川久保川久保俊朗先生のご指導の下、第3期真和館QCサークル活動に取り組みました。

なお、真和館は(財)日本科学技術連盟QCサークル中部九州地区の幹事として参加させていただいています。

- テーマ 服薬管理体制の確立  
入所者の入退院の情報の共有化  
臭い対策  
配膳・作業ミスゼロに

## (4)研修について

真和館は新設の施設であるため、必要とする経験やノウハウの蓄積もまだまだであります。そこで、できるだけ外部研修に職員を数多く出すことにしてきました。

大小様々な外部研修に平成18年度は35人、平成19年度は86人、平成20年度は91人、平成21年度は115人派遣しています。

また、施設内研修としては、CDで「QC7つ道具」と「報・連・相入門」をそれぞれ7回と2回実施しました。

## (5)中期研修計画の策定

真和館の中で一番力を入れているが、一番進歩が見られないものの一つが、人づく

りであります。人づくりには多額の時間と金をかけてきましたが、今のままの研修では効果が上がらないことがハッキリしてきました。

そこで、平成21年後半から「真和館中期研修計画」を作り始め、やっと年度末の3月に出来上がりました。今後はこの計画に基づき、今よりは少しは、効率の高い研修にしていきたいと思います。

#### (6) 真和館改修及び増築計画の推進

真和館職員の働く環境の改善と入所者サービスの向上のため、平成20年10月に策定した「真和館中期経営計画」で、真和館の改修及び増築が計画されました。その計画では、現在の事務室を介護室に転換し、医務室、調理室を拡張し、事務室、施設長室、更衣室を移築し、その2階部分に学習室及び図書室を建設する計画となっています。

また、中期計画では23年度に工事を予定していましたが、現在のところ、これを1年だけ早めて、22年度に計画を繰り上げるということになりました。そこで、早速、熊本県社会福祉課と事務的な協議に入り、年度末には実質的な協議が整いました（正式みは4月1日申請・4月13日認可）。

また、平成22年度の当初予算に総額59,600千円の予算を計上し、理事会での議決も頂くことができました。

なお、調理室については、レイアウトの変更で、安全で効率的な働きやすい調理室に変更ができました。